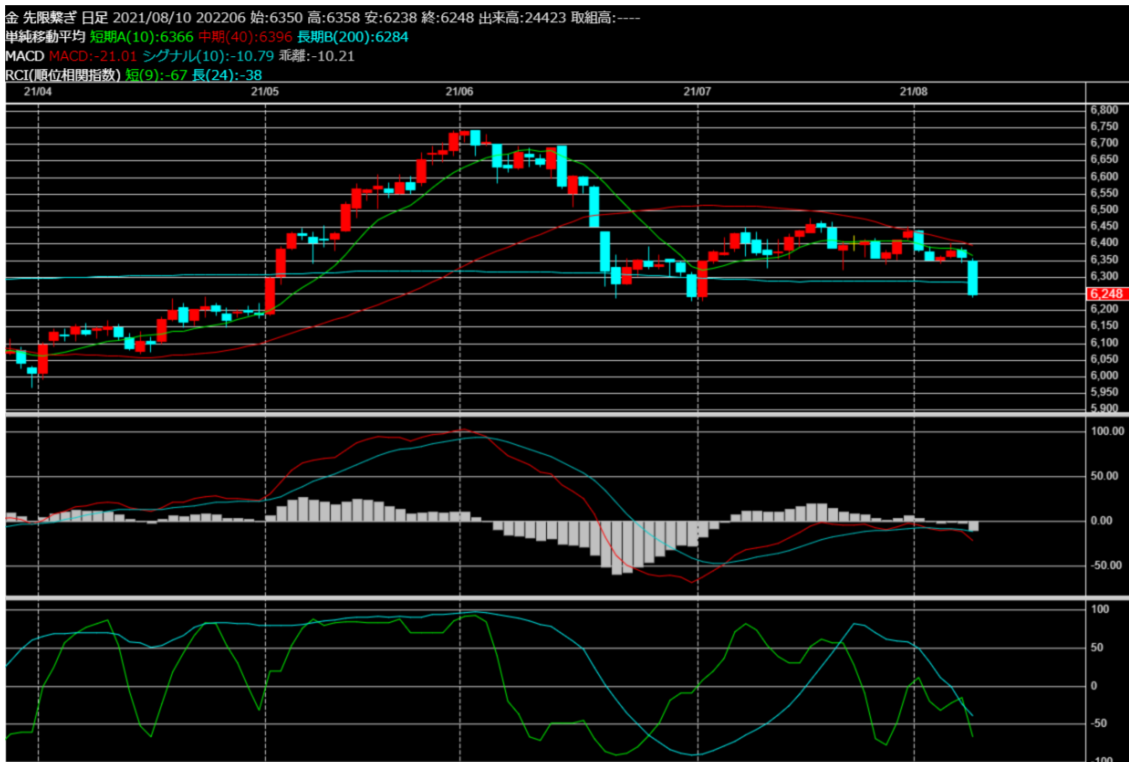


＜金標準先物、一転して 6150 円の下値確認へ＞



(出所：オアシス)

先週から FRB のハト派と称されるブレイナード FRB 理事から始まったテーパリングに対する積極的な意見が、ハト派のクラリダ FRB 副議長に続き、ハト派のウォラーFRB 理事までが「景気は回復するというのが私の個人的な見通しだ。他の人が考えているよりも早期に、緩和的な金融政策を巻き戻せるようになるかもしれない」と述べた中で、注目された雇用統計では非農業部門就業者数が事前予想の 87 万人増を上回る 94.3 万人増となった事から、市場にはテーパリングに備える動きが強まり、NY 金は一日で 45.5 ドル安を示す反落を見せ、金標準先物も一転して 6232 円まで下値を試している。

特に今回の雇用統計を受け 26 日から開催されるジャクソンホールにおけるパウエル FRB 議長の発言が注目され、市場ではテーパリング開始の話題が高まるだけに今週のアトランタ連銀総裁、リッチモンド連銀総裁の要人発言や CPI の発表に注意する週になるのではないか。
(2021 年 8 月 8 日記載)

＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD がシグナルを下回り、RCI でも長期の下落で短期の戻りが抑えられ、短期が下げている事から弱気の動きが予想される。また日足が 200 日移動平均線を下回っており、過去の抵抗を考慮すると下げ止まりを示す可能性は高くなるが、RCI の動きから見ても戻り売り値動きには注意が必要である。特に強気の転換を示すオシレーターのサインは発生していない事から、目先 6200 円を下回る値動きに分があると思える。